

## 憲法は「私たちの物語」のルールブック

### 未来を守る「主権者」の視点とは？

#### 第42回憲法をまもる熊本県民のつどい 開催報告

2026年5月3日、熊本市中央区のパレアホールにて「第42回憲法をまもる熊本県民のつどい」が開催されました。今回は、熊本大学大学院准教授の徳永達哉氏を講師に迎え、「日本国憲法の読み方2026」をテーマに、国際緊張が高まる今こそ必要な「憲法との正しい向き合い方」を共に考えました。

#### 憲法は「政治家の道具」ではなく

##### 「私たちとの契約書」

講演で強調されたのは、憲法の主人公は「政治家」ではなく「私たち国民(主権者)」であるということです。

・「私は」と読み替える: 憲法の条文にある「日本国民は」という言葉を「私は」と読み替えることで、憲法は国を形作るための私たち自身の契約書になります。

・権力を監視する: 公務員や政治家に課された「憲法尊重擁護義務」は、権力が暴走して私たちの日常を壊さないようにするためのブレーキです。

#### 熊本の日常と「平和のうちに生きる権利」

近年、熊本でも健軍駐屯地へのミサイル配備など、軍事的な緊張が身近なものとなっています。こうした情勢下で「有

事」という言葉が安易に使われることに、不安を感じている子育て世代も少なくありません。

徳永氏は、憲法9条が掲げる「平和」とは、単なるスローガンではなく、暴力に頼らずに問題を調整し、一人ひとりの自由を最大限に尊重し合う「日常の作法」であると語りました。

#### 「わが子の未来」への投資を問う

今、防衛予算の拡大が進んでいますが、徳永氏は「その投資が、本当に私たちの、そして子孫の福利(幸せ)につながるのか」と問いかけます。

・監視の目を持つ: 憲法の専門用語に惑わされず、その裏にある「人の命をどう扱うか」という本質を見抜くことが重要です。

・声を上げ始めた若者たち: 東京や主要都市では、情報を照らし合わせ、違和感に声を上げる若者が増えています。

憲法は80年前に「二度と戦争の惨禍を繰り返さない」と決意した先人たちからのギフトです。私たちの暮らしや大切な家族の未来を、誰かに任せきりにしないこと。そのための一歩は、この「契約書」を丁寧にかみ砕き、自分たちの言葉で語り合うことから始まります。

社会新報熊本県版のバックナンバーは下記のアドレス、  
右の二次元コードからご覧いただけます

[https://drive.google.com/file/d/1imqtoZT6gVr-xe6D0\\_zK7hwPN8N1KGBK/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1imqtoZT6gVr-xe6D0_zK7hwPN8N1KGBK/view?usp=sharing)

